

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174701037		
法人名	医療法人 前田クリニック		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	上川郡清水町南1条3丁目20-2		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、医療法人が設立したホームの特徴として、医療連携が充実しており、健康面ではかかりつけ医や看護師と相談し合え柔軟な対応をすることができ、本人、ご家族からは安心できるとの声が聞かれています。入居者が常に主体とした生活が過ごせるように環境作りや、支援に心がけ地域の方々協力を頂きながら、地域に開かれ愛されるホーム作りに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174701037-00&Serv
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームうららは老後人間らしく安心して暮らせるようこの思いを込め開設され「グループホームの生活の中心に入居者がいる」を理念として掲げ、掃除や洗濯のたみ、食事の準備等生活の全ての部分を利用者ができる事を行えるように職員は注意深く配慮し支援に努めています。五感の刺激や生活維持能力を高め、利用者個々が生活しやすいようにカンファレンスを通し管理者や職員が一体となり取り組んでいます。医療体制が充実しており、何時でも職員は利用者の健康管理にアドバイスを受けられる体制になっており、緊急往診、緊急措置が行われ、利用者や家族の安心・安全に繋がっています。利用者や家族の意向に添い、より良い生活が維持できるように利用者個々にあった支援をしています。日常的にはコロナ禍で外出や地域とのコミュニケーションが取れない状況にありますが、人通りの少ない条件の基で、散歩や花見、個々の要望に添ったドライブ等で気分転換を心がけ、室内でレクレーション、おやつ作りなどを行い生活内容を工夫し個々の満足度を満たすように取り組んでいます。また、職員に対してストレスチェックや業務改善アンケート実施等を行い、より良い介護運営を図る上で職員の精神面の活性化を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し、職員は常日頃から意識してより良い支援ができるように携わっている。	理念を基本に職員は各フロア毎の目標を設定し、利用者本位となるように支援に努めています。開設時からの理念やフロア毎の目標を目に付く所に掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物は地域のお店を利用するなどしているが、交流はコロナ禍の影響によりほとんど行えていない。	コロナ禍のため、地域交流が行えない状況となっています。感染防止対策の為、日常的な買い物は家族に連絡し了承を得て職員が行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けた研修会等は実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染状況に応じ対面での開催や書面で報告するといった形をとっている。	コロナ禍の影響で主に書面で運営推進会議は年6回利用者家族、民生委員、町職員、他事業所職員等の構成で、利用状況や活動状況、ヒヤリハット、身体拘束廃止に向けての取り組み等を報告しています。報告書面は全家族、関係者に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば必要に応じ市町村の担当者と連絡を取っている。また、定期的開催される地域支援会議に参加し情報を共有している。	町担当者とは、運営推進会議の報告や日常的な報告・相談などで良好な関係が構築されています。町主催の地域ケア会議には毎月出席し情報交換や連携が図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり、定期的にアンケートを実施し会議内で話し合いの場を設けている。また、内部研修を実施している。	フロア毎の身体拘束、虐待委員会では現状報告やアンケートの実施・結果報告、介護のあり方の検討、年2回の研修(オンライン)等を通して身体拘束の弊害や不適切な言葉遣いについて正しく理解しています。結果は運営推進会議で報告しており、日々身体拘束やスピーチロック、暴言等の防止に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、定期的にアンケートを実施し会議内で話し合いの場を設けている。ほかにも、ストレスチェックや内部研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分に説明しご家族の同意、理解を得ながら契約を行っている。また、疑問、不明な点などは、その都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置し書面で投稿できるように対応している。また、運営推進会議でも意見や要望を聞く機会を設けている。	コロナ禍で感染予防対策で面会制限(窓越し面会、面会禁止期間等)を設け、家族等に協力を得ています。面会訪問の際に、意見や要望を伺い職員と情報を共有しながら利用者がより良い介護を得られるよう支援しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、フロア会議や全体会議を行い、管理者が参加のもと職員同士で話し合う機会を設けている。	月1回フロア会議を開催し、できる限り職員の意見や要望を取り入れ介護運営に反映しています。オンラインや資料提供での研修・情報共有に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ社労士と連携し就業規則を変更するなど職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修をしている。コロナ禍の為、集まらない時は書面を配布し周知する事もあった。また、今年度はオンラインでの研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナ禍の影響でほとんど交流できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、管理者やケアマネジャーと面談し事前に情報を得て安心して入居生活が送れるように本人の希望にも添えるように努めている。また、職員間で情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人やご家族の要望などを聞き取り、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に情報を収集しアセスメントを行ないケアプランを作成し必要な支援ができるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる事を把握し一緒に食事作りや掃除を行い暮らしの中で支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族と相談し協力を得るなど家族との関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の感染状況にもよるが、ドライブで馴染みの場所に行ったり、馴染みのある理容店を利用するなどしている。	コロナ禍の中でも、ドライブで馴染みのある場所の要望があれば利用者個々の対応に心がけています。感染状況を考慮し知人の訪問もありません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性の把握に努め、余暇などを通して利用者同士の関係作りを支援している。また、必要に応じ、職員が間に入り利用者が孤立しないように務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した家族でも引き続き関わりがあるご家族がいる。また、ホームページにてうららの様子など情報を発信している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で入居者の思いや希望を確認し、職員間で情報を共有し、入居者の意向に沿った暮らしができるよう努めている。	管理者や職員は日々利用者の意向を話の中や表情により汲取りより良い環境を作るように心がけています。また、畑や花の水やりや日々の掃除、洗濯のたたみ、調理のお手伝いなどできる限り職員と一緒に生活のはりが生じるように心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から生活歴などを聞き、1人づつファイルにまとめており、情報の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった事があれば行動表やフローシート等に記録を残し、個々の過ごし方を尊重できるように職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族の意向を確認しながらチーム単位でモニタリングやアセスメントを行っている。作成した介護計画はフロア会議にて話し合いを行っている。	基本4ヶ月毎に見直しを図り、フローシートには利用者の様子が記され、介護計画の短期目標、サービス内容が明確化されています。それらを基に、担当職員はモニタリング、アセスメント、フロア会議時にカンファレンスを行い現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常生活の過ごし方や変わった様子があれば行動表や日誌に記入し、職員間での情報共有し会議等で検討しケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族から話を聞きながらその時に合ったニーズの把握に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを支えている地域資源の把握に努めている。今年度はコロナ禍の為、地域との交流は少ない状況であった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的にかかりつけ医の往診を受けている。また、必要に応じ、かかりつけ医と相談し、受診している。	月に2回医療法人で利用者全員の往診が行われ、24時間オンコールは医療法人で医師対応や指示を受けることができ利用者、家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時、夜間帯など時間を問わず電話で相談、対応してもらえる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナの影響により毎日の面会は出来なくなったが、週一度、介護主任が病院関係者と情報交換を行い、早期に退院できるように務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に本人やご家族に意向を確認の上、必要に応じその都度、話し合いの場を設け支援に取り組んでいる。	重度化及びターミナルケアに関する指針により説明し同意を得ています。その都度家族や利用者の意向に添い、医療、事業所が連携を図り取り組んでいます。また、事前に利用前にアンケートを実施し把握しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は研修等を実施できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、年2回実施しており、関係機関や地域住民と連携を図り、助言、指導を受け対応している。	年2回昼夜想定で避難訓練を行っています。地域住民との避難訓練は実現できていませんが、見守りを願っています。	利用者の命や安全をより強化するため、水害や停電等の災害のマニュアルや避難体制を職員間で周知やシミュレーションを通してより災害対策を図ることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活歴や性格等を把握しその人に合った声の大きさや言葉遣いなどに配慮し本人の自尊心を傷つけないように心掛けている。	利用前に生活歴などを把握しており、利用者個々の状況や信条に配慮した声掛けを行っていません。基本〇〇さんと呼びし、尊厳をもって接するよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者に希望を聞いたり、質問の仕方を工夫するなど自己決定してもらえよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で決まっている事もありますが、本人ペースに配慮し出来る限り、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでいただいたり、定期的に散髪をしている。身だしなみが不十分なところ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食のメニューは決まっているが希望に応じ変更したり、夕食のメニューは入居者と相談し決めている。また、準備や片付けは可能な限り入居者と一緒に行っている。	フロア毎の違いがありますが夕食・昼食の1食は、利用者の希望を聞いて相談して献立を作っています。畑で採れた野菜等、利用者と一緒に作り楽しく食事ができるように工夫しています。お寿司のテイクアウトやおやつ作りなど食生活が豊かになるように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量などは記録し把握し、摂取量が少ない時には必要に応じ補食を勧めたり、本人が好む飲み物を提供している。また、主治医に相談し点滴を行う事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な入居者の方は必要に応じ起床時、就寝時、毎食後、水分後に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄状況を把握したうえで検討し各入居者に合わせた排泄が出来るよう努めている。	トイレでの排出を基本に、半分の方が自立しており、失敗のないように見守り対応しています。排泄状況は個々に把握しており、さりげない誘導を心がけ支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供したり水分量不足にならないよう配慮したり、食物繊維を摂ったり、体操など身体を動かす機会を提供し自然排便をうながしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めているが入居者の希望や状態により日時を変更し対応している。また、体調不良等があれば、状態に合わせて清拭など対応している。	基本週2回、利用者の希望に添って支援しています。安全にゆったりと入浴を楽しめるように配慮しています。入浴拒否や体調不良の場合は職員の交代や時間・日時の変更で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていなくそれぞれのペースで休まれている。日中も本人の希望に合わせて横になるなど休息の時間をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関してファイルし保管している。また、必要時、内服薬の種類や副作用について、薬剤師や医師などにも相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や嗜好を把握し、日常生活の中で役割を見つけ、ご本人の負担にならないよう、能力にあった作業や好む余暇活動を支援し気分転換などに繋がるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響により外出の機会は減ったが、ドライブに行ったり、希望があった時は地域の感染状況を踏まえ少しでも希望にそえるように支援している。	日常的には天気の良い日に散歩や花見、畑作業や花壇の手入れなどをして過ごしています。コロナ感染対策で外出イベントや外食はできませんが、個々に行きたい場所やドライブなどで利用者の要望を満たすように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に説明し理解を得たうえで、本人の希望に応じてお金を所持している入居者はいる。外出の機会がなかった為、お金を使う支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じホーム内の電話を使用しご家族などに電話をかけたり、手紙は必要に応じて職員が代筆するなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や時期に合わせた飾り物を入居者と作成したり、季節感を感じて頂けるように努めている。	ホールや廊下の壁には季節が感じられるように利用者と職員の共同の作品が飾られ、生活のスナップ写真が貼られています。共有の空間には必要最低限の物しか置かず、整理整頓を行い、机の上で本や新聞を読んだり、会話やゲーム等楽しめるように生活スタイルに合わせてゆったり過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性を配慮し気の合った入居者同士が過ごせるように努めたり、ソファなど家具の配置も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や物を持参したり、写真を飾ったり、居室のレイアウトを工夫し居心地よく過ごしていただけるように努めている。	使い慣れたタンス・時計・テレビ等が置かれ、家族の写真やカレンダー、本人が制作した作品などが壁に飾られています。居室には洗面台やクローゼットが備え付けられ動線を考慮した配置となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ家具の配置など環境整備を行い、安全に暮らせ、自立した生活ができるよう考慮している。		